

IV 調査観察に関する事項  
1 主要病害虫の発生概況

農作物名 作付面積 (ha)	病害虫名	発生 時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要
水稲 50,600	いもち病(苗いもち)	-	並	-	例年同様、発生は認められなかった。
	いもち病(葉いもち)	並	並	24,600	6月には発生が認められなかったが、7月上旬にやや多の発生となった。7月中旬の上位2葉発病率はやや多であったが、発病株率及び発病度は平年並であった。7月下旬は発病株率、発病度、上位2葉発病率ともに平年並であった。
	いもち病(穂いもち)	並	やや多	6,600	東部の7月中旬に出穂期となった調査地点及び山間部の調査地点で発生が認められた。
	紋枯病	並	多	24,600	7月上旬から発生が認められ、収穫期までやや多〜多で推移した。
	白葉枯病	-	並	0	発生は認められなかった。
	もみ枯細菌病(苗腐敗症)	並	やや多	1,600	2地点で発生が認められた。
	もみ枯細菌病	-	並	0	例年同様、発生は認められなかった。
	ごま葉枯病	並	やや多	6,600	7月上旬に東部の4地点で発生が認められ、7月下旬から収穫期にかけて計9地点で発生が認められた。いずれも葉の斑点症状であり、株枯れや穂枯れには至らなかった。
	黄化萎縮病	-	並	0	発生は認められなかった。
	苗立枯病	並	やや少	800	1地点でトリコデルマによる発生が認められた。
	ばか苗病(苗)	並	多	13,200	17地点で発生が認められた。発生地点すべてで購入種子を使用しており、種子消毒方法は、化学合成農薬13地点(うち1地点は消毒済み種子)、微生物農薬1地点、温湯消毒3地点であった。
	ばか苗病	並	やや多	1,400	1地点で発生が認められた。
	稲こうじ病	並	少	700	1地点で発生が認められた。
	縞葉枯病	並	多	10,400	7月下旬から収穫期にかけて、常発地ではやや多〜多の発生となった。
	萎縮病	-	並	0	例年同様、発生は認められなかった。
	黄萎病	-	並	0	例年同様、発生は認められなかった。
	ニカメイガ	並	多	1,500	7月下旬から収穫期にかけて幼虫による茎の食害が認められた。予察灯による成虫の誘殺数は、5月〜6月及び8月はやや多、7月は多であり、越冬世代及び第1世代ともに発生が多い傾向にあった。
	セジロウンカ	並	少	11,200	本田すくい取り調査では、7月上旬から収穫期にかけて捕獲されたが、やや少〜少で推移した。予察灯による誘殺数は、4月〜6月及び8月〜9月が並、7月がやや少であった。
	トビイロウンカ	-	並	0	発生は認められなかった。
	ヒメトビウンカ	並	並	48,400	本田すくい取り調査では、6月上旬から収穫期にかけて捕獲され、全県平均では7月下旬の捕獲数がやや多となったが、それ以外の時期はやや少〜少で推移した。予察灯による誘殺数は、4月〜9月を通じて並であった。
	ツマグロヨコバイ	早	多	37,200	本田すくい取り調査では、7月上旬から収穫期にかけて捕獲され、7月上旬及び下旬の捕獲数はやや多、収穫期は多となった。予察灯による誘殺数は、4月〜7月は多、8月はやや多、9月は並であった。
	斑点米カメムシ類	並	並	17,100	本田すくい取り調査では、7月上旬は平年並、7月下旬はやや多、収穫期(8月中下旬)は平年並であった。予察灯による誘殺数は、7月はやや多〜多、8月はホソハリカメムシが多であったが、その他の大型斑点米カメムシ類は平年並〜やや少であった。
	イネミズゾウムシ	やや早	やや多	36,100	予察灯において初めて誘殺された日は、過去10年と比較し2番目に早かった。予察灯誘殺数は4月が多、5月は少(ただし、2〜15日欠調)であった。本田見取り調査での25株当たり寄生成虫数は、5月が多、6月がやや多であった。
	コブノメイガ	-	並	0	発生は確認されなかった。
	イネミギワバエ (イネヒメハモグリバエ)	やや遅	やや多	10,100	本田見取り調査では、5月上旬は平年並、6月上旬はやや多の発生であった。
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	並	多	10,800	6月には発生が認められなかったが、7月上旬に15地点で発生が見られ、多の発生となった。収穫期には発生が見られず、平年並となった。
	フタオビコヤガ	並	やや多	1,400	6月は平年並の発生であったが、7月に2地点で発生が見られ、やや多となった。収穫期には発生が見られなかった。
	コバネイナゴ	並	やや多	23,900	6月、7月はやや少〜少の発生であったが、収穫期には21地点で見られ、やや多の発生であった。
	イネヨトウ	-	並	0	発生は認められなかった。
	アワヨトウ	-	並	0	発生は認められなかった。
イネゾウムシ	並	並	18,100	平年並の発生であった。	
イネドロオイムシ	やや早	並	16,600	平年並の発生であった。	
イネクロカメムシ	やや遅	やや少	2,200	生育期間全般において発生は少なかった。	
イネシガラレセンチュウ	-	並	0	例年同様、発生は認められなかった。	
スクミリンゴガイ	やや早	やや多	6,500	特定の調査地点で貝密度が高かった。	
ササキリ類	並	並	3,000	平年並の発生であった。	
サツマイモ 3,800	ハスモンヨトウ	やや遅	やや多	760	10月にやや多の発生となった。
	ナカジロシタバ	並	やや多	1,520	9月以降にやや多発生となった。
	イモキバガ	並	やや多	3,040	10月に多発生となった。
ラッカセイ 4,890	そうか病	-	並	0	本年度は発生が認められなかった。
	褐斑病	並	少	3,430	期間を通して、少の発生で推移した。
	黒斑病	-	並	0	本年度は発生が認められなかった。
夏秋トマト 448	疫病	-	並	0	例年どおり、発生は認められなかった。
	葉かび病	並	並	0	調査圃場は全て耐病性品種のため、並の発生となった。
	灰色かび病	並	やや多	149	9月下旬以降に葉への発生が認められ、やや多の発生となった。10月下旬には果実への発生が認められた。
	モザイク病	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	萎凋症	やや早	やや多	50	8月下旬以降に継続して発生が見られ、やや多の発生となった。
	オンシツコナジラミ	早	多	448	調査期間を通してやや多〜多の発生となった。
	タバココナジラミ類	早	多	398	調査期間を通してやや多〜多の発生となった。
	アブラムシ類	-	並	0	発生は認められなかった。
	ハスモンヨトウ	-	並	0	調査期間を通して幼虫の寄生は確認されなかった。
	アザミウマ類	並	やや少	269	調査期間を通してやや少〜並の発生となった。
	ハモグリバエ類	並	やや多	200	8月下旬以降に継続して発生が見られ、やや多〜多発生となった。
タバコガ類	-	並	0	発生は認められなかった。	

農作物名 作付面積 (ha)	病害虫名	発生 時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要
冬春トマト 238	疫病	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	灰色かび病	早	やや多	100	作期を通じてやや多～並の発生であった。
	葉かび病	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	モザイク病	-	並	0	本作期も発生が認められなかった。
	萎凋症	-	並	0	本作期も発生が認められなかった。
	オンシツコナジラミ	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	タバココナジラミ類	並	並	20	12月、3月、4月に発生が確認された。
	アブラムシ類	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	ハスモンヨトウ	並	並	0	1月に一部で被害が認められた。
	アザミウマ類	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	ハモグリバエ類	並	並	20	12月に発生が認められた。
	タバコガ類	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	冬春キュウリ 194	べと病	並	並	78
うどんこ病		並	少	155	作期を通じて発生が少なかった。
灰色かび病		並	並	39	12月以降に発生が確認された。
菌核病		-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
斑点細菌病		-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
炭そ病		-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
褐斑病		並	やや多	39	12月と2月にやや多の発生となった。
疫病		-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
モザイク病		-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
黄化病		-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
アブラムシ類		-	並	39	本作期は発生が認められなかった。
ハスモンヨトウ		-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
オンシツコナジラミ		並	並	78	作期を通じて並の発生であった。
タバココナジラミ類		並	やや多	78	作期を通じてやや多の発生であった。
ワタヘリクロノメイガ		-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
アザミウマ類		並	並	78	2月に発生が認められた。
ハモグリバエ類		並	並	39	11月にやや多の発生があったが、その後は発生が認められなかった。
つる枯病		-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
スイカ 978		炭そ病	-	並	0
	うどんこ病	並	並	98	4月、5月は発生は認められなかったが、6月に平年並の発生となった。
	アブラムシ類	並	多	782	4月は発生は認められず、5月は平年並であったが、6月は多発生となった。
	ハダニ類	並	やや多	587	4月は発生が認められず、5月は多の発生、6月はやや多の発生となった。
	ウリハムシ	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	黒腐病	-	並	0	本年度は発生は認められなかった。
春キャベツ 1,260	菌核病	-	並	0	本年度は発生は認められなかった。
	灰色かび病	-	並	0	本年度は発生は認められなかった。
	腐敗病	-	並	0	本年度は発生は認められなかった。
	コナガ	-	並	0	本年度は発生は認められなかった。
	ハスモンヨトウ	-	並	0	例年同様、発生は認められなかった。
	アブラムシ類	並	やや多	770	3月以降にやや多の発生となった。
	タマナギンウワバ	-	多	260	1月に多発生となった。
	モンシロチョウ	-	並	0	例年同様、発生は認められなかった。
	ヨトウガ	-	並	0	例年同様、発生は認められなかった。
	冬キャベツ 1,110	黒腐病	並	多	1,110
菌核病		並	やや多	560	2月にやや多発生となった。
灰色かび病		-	並	0	本年度は発生は認められなかった。
腐敗病		-	並	0	本年度は発生は認められなかった。
コナガ		やや早	やや多	280	11月にやや多発生となった。
ハスモンヨトウ		-	並	0	本年度は発生は認められなかった。
アブラムシ類		並	多	560	2月に多発生となった。
タマナギンウワバ		並	やや多	280	12月以降にやや多発生となった。
モンシロチョウ		-	並	0	本年度は発生は認められなかった。
ヨトウガ	-	並	0	本年度は発生は認められなかった。	

農作物名 作付面積 (ha)	病害虫名	発生 時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要
秋冬ネギ 1,270	さび病	-	並	0	発生は認められなかった。
	べと病	-	並	0	発生は認められなかった。
	黒斑病	並	やや少	635	調査期間を通してやや少～並の発生となった。
	萎縮病	-	並	0	発生は認められなかった。
	アブラムシ類	並	並	0	発生は認められなかった。
	ハスモンヨトウ	並	並	0	発生は認められなかった。
	シロイチモジヨトウ	並	やや多	250	9月から11月にやや多の発生となった。
	ネギハモグリバエ	並	並	510	調査期間を通して概ね並の発生で推移した。
	ネギアザミウマ	並	並	250	調査期間を通して概ね並の発生で推移した。
	ネギコガ	並	並	141	調査期間を通して概ね並の発生で推移した。
冬レタス 317	灰色かび病	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	菌核病	-	やや少	0	本作期は発生が認められなかった。
	萎黄病	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	モザイク病	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	斑点細菌病	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	腐敗病	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	べと病	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	アブラムシ類	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	ハスモンヨトウ	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	ネキリムシ類	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	オオタバコガ	-	並	0	本作期は発生が認められなかった。
	サトイモ 1,060	汚斑病	やや遅	やや多	400
モザイク病		並	多	730	調査期間を通して、やや多～多の発生となった。
アブラムシ類		並	やや多	990	調査期間を通して、並～やや多の発生となった。
ハスモンヨトウ		遅	並	400	6月から8月迄は発生は認められなかった。9月は並の発生となった。
イチゴ 218	ハダニ類	並	やや多	800	6月はやや少、7月は並、8月はやや多、9月は並の発生となった。
	灰色かび病	遅	少	51	3月まで発生が無かった。
	うどんこ病	並	やや少	10	発病株率、発病果率ともやや少で推移した。
	炭そ病	-	やや少	0	本作期は発生は認められなかった。
	アブラムシ類	並	やや少	51	10月は平年並の発生であったが、11月以降はやや少で推移した。
	ハスモンヨトウ	遅	やや多	51	10月、2月、3月とやや多の発生となった。
	ハダニ類	並	やや少	77	作期を通してやや少～少の発生であった。
	ミカンキイロアザミウマ	並	やや多	30	12月以降、やや多～多の発生となった。

農作物名 作付面積 (ha)	病害虫名	発生 時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要
ナシ 1,340	黒星病	やや早	多	950	発生時期はやや早く、発生量も平年より多い発生であった。
	赤星病	並	並	40	平年並みの発生であった。
	輪紋病	-	並	0	本年度は発生は認められなかった。
	うどんこ病	やや遅	やや少	40	発生時期はやや遅く、発生量は平年より少なかった。
	カメムシ類	並	やや多	220	一部ほ場で被害があった。
	シンクイムシ類	-	並	0	本年度は被害は認められなかった。
	ハマキムシ類	-	並	0	本年度は被害は認められなかった。
	ハダニ類	やや遅	やや少	200	発生時期はやや遅く、発生量も平年よりやや少ない発生であった。
	ナシチビガ	-	並	0	例年同様、発生は確認されなかった。
	ニセナシサビダニ	やや遅	やや少	40	従来型の被害葉の発生が8月になって認められた。モザイク症状の被害葉は平年より少ない発生であった。
	吸ガ類	-	並	0	本年度は被害は認められなかった。
	アブラムシ類	やや遅	並	550	平年並みの発生であった。
	カイガラムシ類	-	並	0	本年度は発生は認められなかった。
	カンキツ 97	そうか病	並	やや多	39
黒点病		やや遅	やや多	19	9月以降発生が見られ、やや多となった。
かいよう病		並	やや多	19	葉は3月から発生が見られたが、果実での発生は見られず、平年並～やや多で推移した。
ミカンハダニ		並	多	57	3月から発生は見られ、6月から発生が増加し9月までやや多～多で推移し、その後は平年並～やや少の発生となった。
カメムシ類		並	やや多	0	5月にほ場で発生が見られたが、その後は発生が見られなかった。
ハマキムシ類		-	並	0	本年度の発生は見られず、平年並の発生であった。
ヤノネカイガラムシ		-	並	0	本年度の発生は見られず、平年並の発生であった。
ミカンハモグリガ		並	並	39	9月に発生が見られたが、平年並の発生であった。
クワゴマダラヒトリ		-	並	0	本年度の発生は見られなかった。
アブラムシ類		並	並	19	9月に発生が見られたが、少～平年並の発生であった。
ビワ 139		灰斑病	並	並	70
	アブラムシ類	-	並	0	本年度の発生は見られなかった。
	カミキリムシ類	並	並	34	9月に発生が見られ、平年並の発生であった。
	カメムシ類	並	多	0	7月～9月の発生による誘殺数は、4月から多発生で推移した。
	アブラムシ類	並	多	0	本年度の発生は見られず、平年並の発生であった。
ストック 33	菌核病	-	並	0	本年度の発生は見られず、平年並の発生であった。
	萎凋病	-	並	0	本年度の発生は見られず、平年並の発生であった。
	黒腐病	-	並	0	本年度の発生は見られず、平年並の発生であった。
	コナガ	並	並	20	少～平年並の発生となった。
	アブラムシ類	-	並	0	本年度の発生は見られず、少～平年並の発生であった。
カーネーション 16	ハイマダラノメイガ	-	並	0	本年度の発生は見られず、平年並の発生であった。
	斑点病	-	並	0	本年度の発生は見られず、平年並の発生であった。
	立枯病	並	やや多	3	平年並～やや多の発生であった。
	萎凋病	-	並	0	本年度の発生は見られず、平年並の発生であった。
	ハダニ類	-	並	0	本年度の発生は見られず、やや少～平年並の発生であった。
	アブラムシ類	-	並	0	本年度の発生は見られず、平年並の発生であった。
	シロイチモジヨトウ	-	並	0	本年度の発生は見られず、平年並の発生であった。
	ハスモンヨトウ	-	並	0	本年度の発生は見られず、平年並の発生であった。
	ヨトウムシ類	並	並	3	9月から10月にかけて発生が見られたが、それ以降の発生は見られず、平年並の発生であった。
	アザミウマ類	並	並	10	10月から発生が見られたが、少～平年並の発生であった。
オオタバコガ	-	並	0	本年度の発生は見られず、平年並の発生であった。	